Alternative Systems Study Bulletin

第18巻第1号

(2010年4月30日)

ツイッターの可能性

デリダの『条件なき大学』

　ー映画「哲学への権利」上映運動に寄せて

現場から

　自立支援法就労継続支援A型事業所の開所に当たって

後記

編　集　　境　毅

連絡先　　〒600-8691 京都市下京区東塩小路町 京都中郵私書箱 169 号 貿易研究会

ホームページ　http://www.office-ebara.org/

メール　　sakatake2000@yahoo.co.jp

会　費　正会員　：　年間 1口　10万円

　　賛助会員　：　年間 1口　3万円

　　購読会員　：　年間 1口　1万円

振込先　口座名　：　資本論研究会

(郵便振替)　口座番号　：　01090-5-67283

ツイッターの可能性

解題

ツイッターを始めてみました。私の位置づけは、10年前に「21世紀の社会運動の綱領草案（骨子）」を発表した時に補足に付けた以下の文章そのままです。

「新たな社会運動の綱領は、一枚の絵にして、街頭や居酒屋にかかげておくというのが私の夢です。人々は忙しく、生活に追われながらもそれぞれの分野で活動し、時々チラチラとこの絵をながめています。そのうち、現実の方がだんだんこの絵に近づいてきました。そこで突然、この絵に描いてあるように、人々が手を結び合うようになる。ここに、社会革命が実現される。」（『ASSB』誌7巻6号、21頁）

ツイッターは居酒屋というよりは街頭という感じであり、中国文化大革命のときの大字報（街頭の壁新聞）を書くような気分です（実際に大字報を書いたことはありませんが）。数ヶ月体験してみて、一番歯ごたえのあるのはジャーナリストの書き込みだとわかりました。後ツイッターでゼミをやっている宮台真司なども読み応えがあります。

現実のツイッターの表示は、書き込み順に表示されるので新しいものが頭に来ますが、これだと読みにくいので、ひっくり返しています。ハンドルネームが頭についているものは返信であり、末尾に「リツイート」と記入されているのは私がリツイートしたものです。なお一応内容別に見出しを付けましたが、関係ないツイートも削除せず、混じっています。臨場感を持ってもらえると思ってのことです。

1)ツイッターの開始

はじめまして。バラキンです。パソコンからなのでゆっくりです。 10:21 AM Feb 14th

今日はべてるの家の向谷地さんの近著『技法以前』（医学書院）のノート完成。この本は精神医療に対する偉大なる挑戦を企て、かつ非常に面白い本です。 8:21 PM Feb 14th web から

金友子『歩きながら考える』少し読みましたが、スユ+ノモの趣旨と理念はすごくハイテンション。コミューン主義は伊達ではない。全共闘の雰囲気。日本では難しいと感じた。 9:04

では日本ではどうするか。毛利『ストリートの思想』（NHKブックス）をもじれば「溜まり場の思想」か。ストリートの運動も溜まり場あってのもの。 9:35 PM Feb 15th web から

今から昨日の福祉サービス事業準備会の議事録づくりです。4月から高槻市富田のカフェコモンズは障害者自立支援法就労継続支援A型事業所として開所する予定です。皆様のご支援、ご協力をお願いします。 10:53 AM Feb 16th web から

福祉サービス事業所の認定について大阪府からゴーサインが出ました。福祉とは関係のなかったNPO法人日本スローワーク協会ですが、カフェコモンズ（高槻市富田）を

メインの事業所として新しい試みに取り組みます。 11:20 AM Feb 17th web から

カフェコモンズですが、平日の昼は福祉サービス事業でランチを出し、夜は居場所、土日はイベントを考えています。いま、毎週金曜日午後 7 時からコモンズ大学（コモ大）が開講しています。 6:53 PM Feb 17th web から

北海道浦河の「べてるの家」についての紹介文を今から書き始めます。2005 年ころ一度本を読んだことがありましたが、今回は福祉サービス事業開始を控えて切実な関心があります 11:16 AM Feb 18th web から

2)社会的企業の促進

国会議員の皆様に、お薦めです。共生型経済推進フォーラム『誰も切らない、分けない経済一時代を変える社会的企業』(同時代社、2009 年 10 月刊、2000 円)。福田衣里子議員に帯を書いてもらいました。「命には一寸の差もない。懸命に生きる方々を支える社会的事業の試みに希望を感じます。」 11:13 AM Feb 19th web から

今夜は私も参加している、共生型経済推進フォーラムの運営委員会が大阪であります。05 年から社会的経済、社会的企業促進に向けての活動が始まりましたが、本を出したこともあり、NPO 法人化に向けて準備中です。 11:28 AM Feb 19th web から

共生型経済推進フォーラムは 19 日の運営委員会で、NPO 法人化について、3 月に設立総会を開催し、6 月認証に向けて動き出すことを決めました。 11:44 AM Feb 20th web から

「協同労働の協同組合法」(働く人の協同組合) の立法化の動きが急速に動いています。素晴しいことです。私たちは社会的企業法の法制化運動を開始しており、先にお知らせした出版物に書いています。私たちは働く人の協同組合法だけでなく、社会的企業法も同時に法制化することが大切と考えています。 11:54 AM Feb 20th web から

協同組合はメンバーシップ制です。しかし今日の地域社会の現実はもっと広いオープンな事業活動が必要とされている。社会的企業とはより開かれた企業形態ですので、個別の企業の組織形態を問わない形での定義ができます。株式会社、NPO、協同組合、社会福祉法人、その他多くの事業体を含められます。 12:03 PM Feb 20th web から

日本で社会的企業というと、社会的ミッションを持った事業を展開する企業という意味で、法制化するという志向はないようです。私たちはこのアメリカ型のイメージとは別の、ヨーロッパ型の社会的企業が今日本に必要だと考えています。後者は社会的包摂をめざしていて、法制化による支えを伴っています。 12:10 PM Feb 20th web から

今日本で必要なことは、民主党も「新しい公共」と言っていますが、公、民、サードセクターのセクター間バランスを作り出すことで、そのためにはサードセクターの拡大が不可欠です。社会的企業は非営利・協同セクターと共に「新しい公共」を地域に

作り出す主体としての意味を持っていると考えています。 12:15 PM Feb 20th web から

雇われて働くとワーキングプアになるしかないという現実があります。このような働き方とは別の新しい働き方が求められており、働く人の協同組合もそのひとつです。社会的企業も法制化することで、新しい働き方を実現できる場となりえます。それは社会的に不利な立場の人たちと共に働くということです。 12:22 PM Feb 20th web から

事業系 NPO にとっては第一に出資金を集められないこと。第二に融資を受けることが困難。要するに法そのものがボランティア団体を想定していて、事業をしようとしている社会的企業向きではない。 11:08 AM Feb 21st web から

そうですね。最新情報を報告していただきました。@tt_oga barakinn さんの紹介していた「誰も切らない、分けない経済」読み始める。田中夏子さんのイタリア社会協同組合 B 型の話は興味深い 2:55 PM Feb 26th web から

3)『ASSB』誌読者との哲学論争

hirofreak Latest: @barakinn さん。絶対的他者との連帯において、同一性の契機は必要なのでしょうか。初期マルクスにおける類概念との関係で、レヴィナスのように同一性を完全に否定しうるのかという疑問を感じています。教えとしての他者の現前を理解するためには 2:35 PM Feb 27th web から

hirofreaks さん。同一性は思考の論理に属するもので、絶対的他性は多分思考で捉えた存在の、その彼方の問題ではないだろうか。その場合同一性に類似するものは関係性であるように思います。思考に基づく類概念は、思考の彼方にある事態抽象の世界では形態規定としてあると思われる。 2:52 PM Feb 27th web から

@hirofreak さん「類概念は単に思考によるものではなく、存在の共通性として対象的なものでもある」という考え方をカントは超越論的仮像として批判しました。物それ自体も思考の様式と内容に一致しているという考え方です。レヴィナスはカントには言及しないのですが、同様の問題意識では。 9:37 AM Feb 28th web から hirofreak 宛

@hirofreak さん「理性は、人間の類的性格＝共通の特性として、人間に内在している」という考え方に対してレヴィナスは「顔」を喩に論理的関係に倫理的関係が先立つことを主張し、ハイデガー批判を試みたと思います。倫理的関係は関係による形態規定によって成立する論理以前のあるもの。 9:44 AM Feb 28th web から hirofreak 宛

@hirofreak さん。倫理は論理では捉えられず、思考の外にある超感覚的なあるものの訪問から開けてくるものとレヴィナスは言いたかったのでしょう。『存在の彼方へ』の「存在」は論理であり、「彼方」とは思考の外にある倫理的関係ではなかろうか。デリダの歓待も同じことのように思います。 9:50 AM Feb 28th web から hirofreak 宛

思考の外の他者が倫理的関係にあってはなぜ超感覚的なものと化すか。これこそが思考が紡ぎだす論理とは別の、絶対的他者相互の関係がつくり出す形態規定の働きによるものです。顔は感覚には具体的顔でありつつ、それがそのままで「汝殺すなかれ」と語っている。これを論理に先行させることが彼の課題。 10:06 AM Feb 28th web から

@hirofreak さん。「同一性」という言葉自体が問題ですね。倫理的関係は人間以外のものとも成立するのではなかろうか。倫理は先方からの問いかけです。論理はこちらからの掬い取りで、「同一性」なるものは、この掬い取りの帰結では。論理と倫理の根源的な差異がここにあるように思う。 12:17 PM Feb 28th web から hirofreak 宛

わかったようなことを書いていますが、倫理学はやったことがありません。レヴィナスを読んだくらいです。だから先の書き込みは、「レヴィナスに関しては」という注記つきと考えてください。デリダの『友愛のポリティックス』はレヴィナス的倫理を政治化しようとしている、というのは勝手な解釈か。 12:23 PM Feb 28th web から

@hirofreak さん、「私が同一性にこだわるのは、周りの人間に資本主義批判をしてもなかなか理解してくれないのはなぜか、という疑問があるからです。」そういうことなら簡単です。人は理性では口説けない。関心のない人に説得は無駄でしょう。関心を向けてもらえるような場づくりが大事。 2:20 PM Feb 28th web から

@hirofreak さん。理性とは？と問うよりも、知の一つの形態としてそれを考え、それ以外の知の形態の可能性について考えてみては。『モモと考える時間とお金の秘密』(書肆心水) ではエンデの「新しい思考」を紹介していますが、芸術知に学ぶことが近道ではないでしょうか。 10:41 PM Mar 1st web から hirofreak 宛

@hirofreak 「全体化を回避する形での理性」はありえず、理性と全体化はセットだと見たのがレヴィナスだと思う。ヘーゲルのように感性から理性へ昇っていくのではなく、理性の自己批判が必要だと思う。感性に仕える理性という考え方も成立しうる。理性は自己目的ではなく、単なるツールだ。 10:51 PM Mar 2nd web から hirofreak 宛

マルクスの言葉を一々思い出せないが、人間を社会関係の総体として捉えたとすれば、意識的存在に人間の本質を見ることにはならないと思う。理性と感性という区分そのものが、理性優位の立て方。五感に奉仕する理性が芸術知をもたらすのだと思う。昔は実践に奉仕する理論という問題提起であったが。 11:05 PM Mar 2nd web から

@hirofreak 「意識的存在が人間の本質的特徴である」というあなたの考えと「自由な意識的活動が人間の類的性格なのである」という『経哲草稿』からの引用文とはずいぶん内容が違うように思う。存在ではなく活動が問題にされ、本質規定ではなく性格が問題にされている。意識ではなく活動だ。 9:15 AM Mar 4th web から hirofreak 宛

@hirofreak ヘーゲルによれば、意識一般は自我と対象との関係だ。精神現象学は感性から理性へと展開し、ヘーゲルこそが感性を理性の根拠としている。感性に奉仕するツールとしての理性が本当に奉仕できるためには徹底して理性的でなければならないだろう。理性批判は最大級の理性を要求する。 10:58 PM Mar 4th web から hirofreak 宛

@hirofreak 理性に基づく理論を唱えるだけならどんな理論でもかまいはしない。しかし理論をツールとして使いこなせば、結果によって検証される。理論をお題目にすれば、検証はなされない。今日の社会運動のツールになれる理論は生半可な研鑽では無理。同一化を結果しない理性の可能性とは。 4:57 PM Mar 5th web から hirofreak 宛

@hirofreak 運動に関わっているかどうか、という問題ではなく運動の発展についての認識があるかどうかの問題。理論なしでも運動できるし，間違った理論でも運動できる。運動も様々。ただ物象化による人格への意思支配は様々な運動の前提条件としてあるのではないか。これを暴く理性に期待。 10:51 AM Mar 7th web から hirofreak 宛

@hirofreak 理性の役割も大切だが、物象化による意思支配から逃れていける運動がもっと大事。実際このような運動が起きている。当事者が脱物象化をめざしているかいないかに関わらず、それを体現した運動は自ずから繋がっていける。この繋がり方についての実践的知恵を共同で作り出すこと。 11:00 AM Mar 7th web から hirofreak 宛

資本主義批判は、今日では脱物象化の運動提起にまで至って初めて実践的になる。脱物象化の運動に問われるのは日常性であり持続性だ。脱物象化の運動を構想するときには、古代の都市文明が崩壊したときの地方での封建制に向けた社会の再編が参考になる。大都市の周辺やその内部から脱物象化運動が進む。 11:10 AM Mar 7th web から

@tater Haya 他人から見られたとき自分は社会の代表者として振舞うことを見えない関係で強制される。デリダはこの社会関係がもたらす力学への反省を聴衆に促しているようだ。レヴィナスの顔は、社会の代表として振舞うことの暴力性を暴く。デリダとレヴィナスのすれ違い。勝手な解釈だが。 11:21 AM Mar 7th web から tater Haya 宛

4)脱物象化の運動と国家論

ニートは侮蔑用語だった。最近のニートは雇われない生き方＝自営という脱物象化の主体になっている。2 月 10 日ニートの日にカフェコモンズで 3 日間のニートピアのイベントでの感想だ。脱物象化の肝は雇われないということだ。誰も雇われないで生活すれば、資本主義はなくなる。工業もこの原理で組織。 11:30 AM Mar 7th web から

@hirofreak 物象化は商品や貨幣や資本の存在様式から帰着するもので、「理性が物象

化だ」とは主張していない。もちろん物象化を見抜けない理性というのはある。商品や貨幣や資本に意思支配されている、という現実を見据えられるかどうかが問題だ。感性的には多くの人が厭だと感じている。 5:59 PM Mar 7th web から hirofreak 宛

@hirofreak 物象化とは人格の物象化と物象の人格化という転倒を指す。人間の類的力が疎外され、国家や神に宿ると観念されるのは物神性だが、商品と対比すると差異が明らか。商品は概念的存在で人格が商品に意思を宿して物象化し、商品は人格化する。国家は幻想的共同性で意思支配はない。 10:40 PM Mar 8th web から hirofreak 宛

国家が幻想的共同性であるのは、徴税一つ取ってみても強制関係で、これがしかし共同性というイデオロギーで包まれている事を指す。神は人間の類的力がそれとして意識されない生産様式の段階において、それが外化されることで生みだされたもので、支配の様式だ。商品と違って国家や神に意思を宿さない。 10:51 PM Mar 8th web から

こんな区別にこだわるのは、同じ疎外といっても疎外される仕組みの違いを明らかにする必要からだ。商品も国家も神も疎外態だ。しかし物象化を先の意味に理解すれば、商品と国家や神の疎外の仕組みの違いが明らかとなる。せっかく違いが示されているのになぜ物象化ということで同一化するのか。 10:56 PM Mar 8th web から

国家は権力的支配関係であり、神はイデオロギー的支配関係だ。国家による支配が自由であり神の信仰は自由だというのは奴隷の思想だ。対して商品は、商品という物象に人格が意思を宿す関係であり、商品の価値法則を自然法則とみなしてこれに順応する関係だ。この関係は人々には自由と観念される。 11:06 PM Mar 8th web から

餓えの規律で資本に縛られることがこの社会の日常だ。資本の支配はそれ以外には生活の道がないという働く人の経済的隷属に基づく。これがいやだという考えが浮かんでも生活の道が他にないから従わざるを得ない。国家の国民として生を受けたからその支配下に置かれざるを得ない、ということとの差異。 11:12 PM Mar 8th web から

今日の国家が自由な民主主義国家として成立可能な根拠は、国民の多数が餓えの規律によって資本に縛られているからだ。資本による拘束は本質的に自由と観念される。国民の多数は資本に拘束されているから、国家の支配は赤裸々な強制力を必要とはしない。自由な国家は国民の資本への経済的隷属が土台だ。 11:20 PM Mar 8th web から

毎朝決まった時間に国民の大多数が出勤し、夕方の退社時間まで自分の労働力を資本の指揮下で支出する。退社した後は自分の労働力の再生産の時間だ。大多数の国民は政治に参加する時間を持てない。資本がこのように国民を拘束するので、国家には人身的な強制力は不必要で自由な国家を僭称できる。 11:29 PM Mar 8th web から

脱物象化とは、餓えの規律による資本への経済的隷属を厭だと感じて抜け出す試みを指す。雇われない生活は生産手段を奪われている今日の働く人々には至難の道だ。しかしＩＴ産業が発達したことで、生産手段を個人的に所有する道が開けてきている。

農業の再生も課題だ。脱物象化の可能性は広がっている。 11:36 PM Mar 8th web から

@hirofreak ここで用いている意思支配とは、概念的存在である商品に意思を宿すことで意思支配されるケース。政治とは説得又は強制による、他人の意志の領有だ。これも意思支配だが、その様式が違う。こちらは自由な人格相互の間の支配隷属関係で国家なるものが支配するわけではない。 10:52 PM Mar 9th web から hirofreak 宛

hirofreakbarakinn さんが紹介してくれた pha さんの記事を読んだ。仕事に人生のほとんどをとられている人間にとって、うらやましい話ではある。しかし、家庭をもっている身としては、なかなか同じ道に踏み出す勇気がでない。ニートになっても時間をもてあますことはないと思っているだけに無念である。 9:19 PM Mar 13th web から あなたがリツイート

hirofreak 昨日表三郎さんの『問いの魔力』と『答えが見つかるまで考え抜く技術』を入手。予想していたとはいえ、自分にとっては反省をさまられることがいろいろ書いてあった。逡巡、躊躇し続ける人生ではたしていいのだろうか、など。いまさら外国語はちょっとむりかな、とか。時間がほしい。 9:29 PM Mar 13th web から あなたがリツイート

@yuji_nishiyama お疲れ様でした。『情況』誌に映画上映会について何か書くように言われました。とりあえず、デリダの『条件なき大学』(月曜社) を読んでみます。 8:44 AM Mar 14th web から yuji_nishiyama 宛

昨夜ツイッターが止まったが、私の返信への返信も来ていない。フォローもメールが来ているのに、実現していない。相手のホームに記録はあるのに私のホームには存在しない。いまデリダなんか読んでいるせいか。痕跡とはこのことか。 10:32 AM Mar 15th web から

@taikuntai 生きているという主体性と、生かされているという現実の裂け目がヒントかも知れないよ。 9:53 AM Mar 16th web から taikuntai 宛

5)条件なき大学の労働の終焉論とニートの言語革命

（注）この項については、後掲論文「デリダの『条件なき大学』」参照。

デリダ『条件なき大学』は不思議な本だった。デリダが理想とする大学を論じているのだが、その課題は「新しい＜人文学＞」で、そのテーマはなんと労働なのだ。「あたかも労働の終焉が世界の起源であるかのように。」(『条件なき大学』、22 頁) という謎めいた言葉を起点に労働についての考察が続く。 9:32 PM Mar 20th web から

「労働の終焉」という言葉はリフキンの書名から取ったもので、リフキンは、IT 技術の発達による製造現場の労働の減少を論じているのだが、デリダはリフキンの議論の限界について論じている。それだけではなく、マルクスやレーニンの名を記している。もちろんマルクスの思想については述べないのだが。 9:38 PM Mar 20th web から

マルクスにとっては「労働の終焉」とは賃労働の終焉で、これは即コミュニズムという新しい世界の起源のことだ。デリダはこれについては黙して語らない。しかし条件なき大学の原則について、「全てを公的に言う権利、全てを公にする権利」に求めている。確かに今の大学には全てを公的に言う権利はない。 9:45 PM Mar 20th web から

そこでデリダは、大学の外の力に期待をかける。「アカデミズムの外の力と調和しながら現実に抵抗するため、また、(政治的、経済的な) 再我有化のあらゆる試みに抗して、主権のあらゆる別の形象に抗して、自らの営み〔=作品〕によって創造的な攻撃布陣を張るためにです。」(72 頁) とまで語る。 9:47 PM Mar 20th web から

映画「哲学への権利」の西山雄二監督はデリダの『条件なき大学』(月曜社) の訳者でもあるのだが、全国各地で映画の上映運動を繰り広げている。これ自体彼の今日の大学制度への批判が込められている。アカデミズムの外の世界との調和をめざして外に出て行く事が意識されているようだ。 9:53 PM Mar 20th web から

外の世界から言えることは、「労働の終焉」は賃労働の終焉としては、ニートという侮蔑用語として実在している。この侮蔑用語を言語革命によって、積極的意味をもたらす闘いがいま始まっている。ニートとは雇われて働くことへの嫌悪感から生じ、雇われて働くことではない働き方を求める社会運動なのだ。 9:57 PM Mar 20th web から

ニートは雇われて働くフリーターと同じ貧しさの中にあっても、世界の起源である「労働の終焉」という大儀、自らが、働く人を搾取し抑圧する資本を創り出すということから、自己責任の名において脱出し、そうとは知らずに、来るべきコミュニズムという名の世界の起源を今日の歴史に刻み込んでいるのだ。 10:00 PM Mar 20th web から

「私は不可能なものについてお話ししましたが、この不可能なものがおそらくいつか到来するとしても、その帰結を想像することをみなさん方に委ねるしかないからです。時間をかけてください、しかし、急いでそうしてください。何があなた方を待ち受けているのか、あなた方は知らないのですから。」 10:01 PM Mar 20th web から

デリダが「不可能なものについて」話した 98 年には、まだニート革命は不可能なものだった。しかし、2010 年というニートの年の 2 月 10 日にニート革命がどこかで成し遂げられ、いまやニート革命後の世界が開けてきている。アカデミズムの内のあなた方はこのことをまだ知らない。上映運動の宿題だ。 10:05 PM Mar 20th web から

情況誌への「哲学への権利」上映会についての寄稿はやっと完成。これまで数回西山訳『条件なき大学』(月曜社) についてコメントしてきたが、その内容が中心になっている。デリダを読んだことで、以前書いた『マルクスの亡霊たち』への批評を近々HP に UP することを考えている。 3:26 PM Mar 28th web から

デリダ『マルクスの亡霊たち』は彼の資本論解釈ですが、それへの批評を試みてみました。2008 年の作品ですが、http://www.office-ebara.org/ のブログ「バラキン雑記」

に UP しました。 10:13 PM Mar 28th web から

6)若者の存在と意識についての調査

若者の存在と意識というテーマで調査を計画してもう半年近くたってしまった。焦点が定まらないまま、先日最初の聞き取りを行った。その結果、ずいぶん見えてきたものがあった。ポイントは主体形成なのだが、これは今日では政府の施策と切り離せないということがよく分かった。 10:10 AM Apr 2nd web から

政府の若者にたいする施策は、03 年に出された「若者自立・挑戦プラン」と 05 年に出された「若者自立塾」だが、いずれも若者支援をしている民間の団体からすれば、的外れなものだった。中間で天下り団体に中抜きされ、具体的施策は NPO で臨時雇用されたワーキングプアたちによって担われる。 10:17 AM Apr 2nd web から

過去の自民党政権下での若者に対する施策の点検と、公的支援のあり方についての基本構想を打ち立てることが急務だと思う。その際に独自の若者の主体形成のイメージが問われるような気がする。それはポスト資本主義の社会のあり方についての一定の合意に基づくようだ。鍵はニートによる言語革命か? 10:25 AM Apr 2nd web から

西ヨーロッパでは若者問題は 1970 年代から顕在化し、様々な支援施策がとられた。日本では若者問題での政府の施策の具体化は、今世紀に入ってからだ。日本政府の施策の検討は若手の研究者にとってはすごくいいテーマだと思う。自身の大学でのワーキングプア的処遇問題も含め。既に誰かやっているか。 10:47 AM Apr 2nd web から

高槻市全体がジャズの演奏に包まれる「高槻ジャズストリート」(www.0726.info)。今年は 5 月 3 日と 4 日です。有名無名のアーティストたちが集い、街頭でのジャズ演奏の他、屋内での演奏もあります。また広場でのフリーマーケットも設けられ、大勢のボランティアの手で運営されています。 11:03 AM Apr 7th web から

@T_Yoshimoto 気分いい隆明さんにフォローされ。ところで隆明が 60 年頃に主張した「自立」と、現在官僚や財界が主張している「自立」との違いはどこにあるのだろうか。 12:08 AM Apr 10th web から T_Yoshimoto 宛
(注) 吉本隆明のツイートは既刊書籍の引用ばかりで、本人がつぶやいているわけではないようだ。

7)新しい公共円卓会議へのコメント

鳩山首相が主催している新しい公共円卓会議についてつぶやきます。この会議に 3 月 25 日付けで作業チームが「社会事業法人 (案)」というペーパーを提出しています。ネットで内閣府の HP で見れます。作業チームはもちろん経済産業省などの官僚によって構成されていると思われます。その内容がひどい。 9:51 PM Apr 11th web から

社会的企業の必要性と題する冒頭の一句でチームは「世界一の借金国日本は、もはや政府によって全ての社会的課題は解決できない」と述べている。世界一の借金大国に

したのは誰ですか。経済産業省にもその責任があるのでは、とまず突っ込みたくたくなります。この国の官僚の無責任体質は全然変わらない。 9:58 PM Apr 11th web から

チームは続いて「ゆえにスリムな政府・大きな公共へ」と書きます。しかし国の借金と家計の借金とは全然性質が違う。国の借金は実はそれに寄生している金融機関や利子生活者がいて、彼らは国民の税金から支払われる国債の利子で利殖活動をしている。国債発行額が増えるに従い彼らの利益も増大する。 10:04 PM Apr 11th web から

日銀のバランスシートを見ても、国債利子がなければ日銀の経常利益が△になるような状態で、利払いが安定している国債という金融資産が金融機関の収益の基幹となっているのだ。国が借金を増やすことで、これらの金融機関が延命できている。国の借金は金融資産を増大させる魔法の杖なのだ。 10:10 PM Apr 11th web から

つまり国の借金は金融資産を増大させ、金融取引を活発にさせる役割を果たしているわけだ。そして、利払いと借り換えで国債発行額は鰻登りに増えているのだが、だからといってこれで国の予算執行に制限を設けるということは全然お門違いの考えかただ。国の借入金は金融資産だからこれは架空資本なのだ。 10:17 PM Apr 11th web から

国の予算は現実資本だ。他方国の借金は金融資産であり、架空資本だ。架空資本が増えても現実資本の増減とは関係がない。架空資本の増大を根拠に予算支出の制限を考えることは錯覚であり、意図的にやっているならば詐欺だ。現に今回の金融危機で民間の金融資産が劣化したために国債が肩代わりしている。 10:23 PM Apr 11th web から

国の借金がなければ今日の金融システムは存続できなくなっている。要するに国は民間の金融資産の劣化に対してそれを肩代わりすることで今日の金融システムを維持している。それと現実の予算での支出増大とは無関係であり、国の均衡財政という理念も今日のような金融資産本位の世界では妥当性がない。 10:28 PM Apr 11th web から

この国の財政は一般会計以外の特別会計では巨額の資産があり、国民の金融資産も巨大だ。この国の借金は自民党政権下での政・官・財の癒着による無駄遣いや国への寄生によるので、これを整理すれば、経済成長なしでも借金地獄から抜け出すことは可能だ。官から民へは金融資産の世界でこそなされるべき。 10:39 PM Apr 11th web から

チームは政府が何もできないので、新しい公共の担い手として社会的企業に期待し、その活動を促進すべく、社会的事業法人という新しい法人格をつくることを提案している。これは新しい公共の創造を民に丸投げするということだ。しかし新しい公共の提起には、従来の公の仕組みの批判的検討が不可欠だ。 10:45 PM Apr 11th web から

今問われているのは、高度経済成長以降の停滞期に、国の舵取りを誤った官僚の自己批判であり、国の財政政策や経済政策の批判的検討だ。つまり公の組み換えということが新しい公共を提案する前提になければならない。公はそのままにして民に新しい公共の創造を丸投げするチームの提案は机上の空論だ。 10:51 PM Apr 11th web から

新しい公共という概念に、社会的排除の問題がきちんと位置づけられていず、社会的包摂の取組みが据えられていない。社会的排除とはポスト工業化社会における産業活動が社会的排除を伴っているということで、社会的包摂とはこの産業活動の排除的機能の是正ということだ。そのための新しい公共が問題だ。 10:57 PM Apr 11th web から

チームの考え方は公にも民にもサードセクターにも市場原理を適用するということだ。しかし新しい公共は、三つのセクターがそれぞれ別の原理で律されることで初めて具体化されよう。そして三つのセクターのセクター間バランスを形成しなければならず、そのためにはサードセクターの育成が急務だ。 11:01 PM Apr 11th web から

そもそも社会的企業はサードセクターの中核的存在としての意義を持つ。それはサードセクター育成という全体構想の中で考えられるべきで、チームが構想するような、政府が放棄した課題を担うお助け企業ではない。公の変革と市場原理とは異なる原理でのサードセクターの育成、これが新しい公共の課題だ。 11:06 PM Apr 11th web から

サードセクターの拡充という観点からすれば、社会的企業に新しい法人格を付与するというチームの提案は現実的ではない。むしろ韓国の社会的企業育成法のような認証制の方が現実的だ。いろいろな法人格の企業が一定の条件で社会的企業としての認定を受けられる制度、これが今求められている。 11:11 PM Apr 11th web から

8)告知とリツイート

論文「浦河べてるの家の紹介」を HP に UP しました。http://www.office-ebara.org/ のバラキン雑記をご覧下さい。なお、NPO 法人日本スローワーク協会の、障害者自立支援法就労継続支援 A 型事業所は、無事 4 月 1 日から始まっています。 10:51 PM Apr 15th web から

megumes P201 に丸山さん—— 「商品の価値がもつように見える自己同一性ゆえに交換可能なのではなく、交換可能を保証する貨幣の出現によって関係が実体と錯視され商品の物神化が成立する状況は、‥‥<物象化>の現象である.」 8:03 AM Apr 21st web から あなたがリツイート

megumes これでは、等価形態上着が、価値形態をとるも、自然的形態として現象することで、物と物の関係として錯視されることが、批判されていない. 8:03 AM Apr 21st web から あなたがリツイート

megumes『言葉と無意識』丸山圭三郎を読んでいます. 彼は価値形態論を物神性批判の視点から見ているために、既成の価値表現のメカにズム論を批判しえていないと思えます. 12:51 PM Apr 20th web から あなたがリツイート

デリダの「条件なき大学」ー 映画「哲学への権利」上映会によせて、をHPにUPしました。http://www.office-ebara.org/のバラキン雑記です。西山監督の映画はパリの国際哲学コレージュの研究者を取材したものですが、デリダの『条件なき大学』も西山さんの訳です。 9:35 PM Apr 22nd web から

デリダの『条件なき大学』(西山雄二訳、月曜社)についての文章のうち「労働の終焉」を巡っては、その一部を既にツイートしています。友人からは労働論についてもっときちんと書くべきだとも言われていて資料を集めている段階です。ネットで見つけた桜井哲夫「今村労働論の今日的意味」が面白かった。 9:47 PM Apr 22nd web から

@patrasche_2010 高槻市富田のカフェコモンズでは、5月2日午後2時より「窯の会」があります。コモンズの石窯で持ち寄った食材を焼いて食べるイベントで、引きこもりサポートの企画です。この日の午後5時からはスペース研究会の読書会です。3日と4日は高槻ジャズストリートです。 11:08 AM Apr 23rd web から patrasche_2010 宛

9)正規労働者の運動の可能性を探る

今5月2日の読書会の本の一つ『プレカリアートの詩　記号資本主義の精神病理学』(櫻田和也訳、河出書房新社)が私には目茶苦茶面白い。サイバー空間とサイバー時間(人間主体)との矛盾から現代の精神病理を説き、そこからの脱出を特異的自律ゾーンの文化的活動に求めている。コモンズはまさにそう。 5:11 PM Apr 23rd web から

デリダ『条件なき大学』に触れた拙文(HPのもの)の意見交換をした。ニートの運動は理解できるが、雇われて働いている者はどうすればいいのか?という疑問が出された。自分もニートだと意識して行動すればいいと言う意見が出たがそれでは資本の許容範囲でしかないと質問者はいう。名案を募集します。 12:37 PM Apr 24th web から

『プレカリアートの詩』ではこの問題について認知労働者に期待し、彼ら自身のオートノミーな自己組織化を予測している。そのような認知労働者は「コニタリアート」=自己の認知能力と神経エネルギー以外に何も所有しない者、つまり子どもも作れない現実を知って、そのような自己組織化を始めるという。 1日前 web から

雇われて働くワーキングプアにとってはユニオンに入るなり作るなりして労働組合運動を始めることができる。問題は既成の正社員労働組合の人たちがどうすればいいのかということが質問者の意図だった。だから『プレカリアートの詩』の答えは質問者を納得させない。職場から脱出せずに何ができるのか。 about 24 hours ago web から

deschoolman 自分の労働の意味をシステムが定義してその外に出られない。「勝ち組」とされる「正社員」が自殺に追い込まれる構造は労働観ばかりでなく文化全体の衰弱によるだろう。もう一つの社会の希望が消えるとき人は「原理主義」に寄りかかって己を癒そうとする。そういう安易な道をとらない人は狂い始めるかも about 20 hours

ago web から あなたがリツイート

deschoolman 自分が従事している仕事の意味を過剰に意味づけるのは危険である。その意味付けは職場のシステムと多少ともつながっているから、不幸にもその意味が自らの意に反して無意味や反意味に変化する。そのとき仕事に自己をかけてきたモウレツさんは燃え尽きてしまう。「さぼり」の積極的な意味はそこにある。 about 20 hours ago web から あなたがリツイート

deschoolman 労働は快楽でなければならない。「いつかわれわれは芸術すなわち人生の快楽をとりもどすであろう。日々の労働に芸術を再び取り戻すであろう」(モリス「芸術と社会主義」)こういう未来を空想すらできなくなった想像力の貧困の責任の一端は「科学」にあるだろう。科学による夢の圧殺。文学の終焉。 about 20 hours ago web から あなたがリツイート

border1968「僕の会社員人生には悔いがある。それは、いろいろ失敗したこととか、無能なまま終わったことじゃない。あまりにも忠実に、言われたことをこなし、やらねばならない仕事を引き受けてきたことだ」――『たぬきちの「リストラなう」日記 』http://ow.ly/1CGmj about 3 hours ago HootSuite から あなたと2人がリツイート

chibasports 日本の就職・採用活動システムに関して色々言いたい事がある。大手に入社してスーツを着て満員電車に揺られ上司のご機嫌を伺いながらストレスを溜めこみ週末死んだように眠り、月曜に死んだ魚のような目で出勤するのが幸福ではないはずだ。「働き方」には色々な景色がある。そんな提案を事業にします。 about 12 hours ago web から あなたと8人がリツイート

aruteri「非営利団体」が市場競争圧力に巻き込まれ、非正規労働等を容認せざるをえない現状と、それを痛切に「自己矛盾だと自覚」しないこと、そのものが「危機」ではないのでしょうか?脱出口は、市場ではなく「地域」なのですが、再度「新自由主義の内在的批判」が必要です。 about 7 hours ago web から あなたがリツイート

megumes @barakinn 第二組合を出立とする大企業労組、例えばトヨタでの過労死裁判。QCサークルの「自主的運動」をサービス残業で行うことでの憤死. 他例、スカイラーク店長の過労死裁判二件――この件に対処した東部労組石川さんの『人のために生きよう!団結への道』。 about 2 hours ago web から barakinn 宛 あなたがリツイート

megumes ここからは、派遣労働者と本工労働者の対立を組織した新自由主義的な労働者支配への対抗が、『人のために生きよう』の核心とする「反省規定」にあると思うのです. about 2 hours ago web から あなたがリツイート

megumes「人のために生きよう」のそこでの無意識な実践. 商品形態が、価値形態を回り道とすることでの私的労働の社会的労働への転化でもたらされることへの批判。about 2 hours ago web から あなたがリツイート

デリダの「条件なき大学」
映画「哲学への権利」上映会によせて

「哲学への権利」上映運動

西山雄二監督の映画「哲学への権利」の上映運動が繰り広げられている。パリの研究教育機関「国際哲学コレージュ」に所属する７人の研究者たちへのインタビューを編集したもので、テーマごとに７人の発言が巧みに編集されており、コレージュの制度のみならず、現代哲学への招待のメッセージとなっている。フランス語の発話に字幕が付けられ、哲学者の息吹が伝わってくる。何度も見る価値があると同席した学生が言っていた。また、その上映方法にも特徴があり、受け入れの研究機関の関係者と西山監督が上映後シンポジウムを行い、そしてその後懇親会になだれ込む。３月にはパリで、取材した研究者たちと一緒に上映会を行ったとのことだ。上映会のスケジュールはネットで「哲学への権利」で検索すればいい。

私はまず阪大での上映会に参加し、その後京大での上映会にも参加したが、若手の研究者たちとの交流ができて楽しませてもらっている。このたび『情況』誌で報告するに当たり、この半官半民の特色ある研究所の設立に関わったデリダの晩年の著作で、西山監督自身が翻訳している『条件なき大学』（月曜社）を素材にして、条件なき大学を創り出そうとしている上映運動に賛歌を捧げたい。

あたかも労働の終焉が世界の起源であるかのように

デリダを紐解くのは久しぶりのことだ。1998 年にアメリカのスタンフォード大学で話された講演を基にしたものだが驚くべきはそのテーマが「労働」であることだ。そしてその導入は「あたかも労働の終焉が世界の起源であるかのように。」（『条件なき大学』、22 頁）という謎めいた一句なのだ。条件なき大学を考察する際になぜ労働が問題なのか、というと、デリダは大学での研究をも労働という範疇に入れているからなのだが、どうもそれだけではないようだ。

デリダは条件なき大学の研究課題を「新しい＜人文学＞」としているのだが、その研究課題の中心を労働の考察に求めているようなのだ。「労働の終焉」という言葉自体は、リフキンの著作名から借用したもので、デリダはリフキンの説の限界について言及している。リフキンによる労働の終焉は、情報テクノロジーによる現場労働の衰退のことで、デリダはリフキンがアメリカでの教職志望者の失業や大学への非正規労働の導入、また一般労働市場での大失業，さらには技術の発展の動きに取り残されている世界の地域等々、を見ていないといって批判しているのだが、しかしそれだけではなく、マルクスやレーニンの名にも触れている。マルクスの名においては、労働の終焉とは賃労働の終焉であり、それはコミュニズムの起源となるものだった。デリダはマルクスの名を書き留めるだけで、この思想は伏せている。

条件なき大学とは何か

では条件なき大学とは何か、その原則についてデリダは次のように述べている。

「条件なき大学は、原則的に、また、宣言された自らの使命に合致し、公言された自らの本質にしたがうならば、教条的で不正なあらゆる我有化の権力に対する批判的抵抗――そして、批判以上の抵抗――のための究極的な場であり続けなければならないでしょう。」（12 頁）

デリダはこのような原則が実際世界のどこにも実現されてはいないことを認めたうえで、しかも信仰告白という形でこのように述べているのだが、もしこれが不可能だったとしても、不可能であるがゆえに、「労働」の考察に基づく「新しい＜人文学＞」を要請しているのだ。

「これこそが、私たちが『条件なき大学』と呼ぶことでそれに訴えようとしているものです。それはつまり、虚構や知の実験という形をとるにせよ、＜すべてを言う＞という原則的な権利、すべてを公的に言う権利、すべてを公にする権利です。こうした公共空間への準拠は、新たな＜人文学＞と啓蒙主義時代との親子関係的な絆であり続けるでしょう。」（13～4 頁）

すべてを言う権利、確かにこれは今の大学制度には保障されてはいない。マルクスの名やその思想も公にすることが躊躇われるような雰囲気があるに違いない。アカデミズムの外の世界にいる私には想像するしかないのだが。

「新しい＜人文学＞」の生成

デリダも労働についての研究を課題のひとつとする「新しい＜人文学＞」がアカデミズムの内部で成し遂げられるとは見ていない。

「だとすれば、私たちは〔大学の〕内部と外部のあいだで限界そのものに触れており、とりわけ、大学それ自体の境界線に、大学における＜人文学＞の境界線に触れていることになります。」（71 頁）

今回の上映会はこの境界線に触れる場を作り出している。大学における旧来の＜人文学＞がその外の世界の学識及び経験と出会う場だ。この場での相互浸透によって大学における「新しい＜人文学＞」が構想され、その外の世界と交流することで「新しい＜人文学＞」が生成される。

「アカデミズムの外の力と調和しながら現実に抵抗するため、また、（政治的、経済的な）再我有化のあらゆる試みに抗して、主権のあらゆる別の形象に抗して、自らの営み〔＝作品〕によって創造的な攻撃布陣を張るためにです。」（72 頁）

そうなのだ。デリダはアカデミズムの外にこのような期待をかけていたのだ。

労働の終焉とニートの言語革命

デリダの期待に応えるべく、私たちは条件なき大学をめざした上映運動に対して、アカデミズムの外からの役割を果たさなければならない。いま言えることは、「労働の終焉」は賃労働の終焉としては、ニートという侮蔑用語として実在していることだ。この侮蔑用語を言語革命によって、積極的意味をもたらす闘いがいま始まっている。ニートとは雇われて働くことへの嫌悪感から生じ、雇われて働くことではない働き方を求める社会運動として自己を規定し始めている。フリーターとは今日では雇われて働くワーキングプアの意味となっている。ニートは同じ貧しさの中にあっても、世界の起源である「労働の終焉」という大儀とかかわっている。ニートは資本に雇われることで、自らが自身も含めた被雇用者を搾取し抑圧する資本を創り出すという現行の

経済システムから、自己責任の名において脱出し、そうとは知らずに、来るべきコミュニズムという名の世界の起源を今日の歴史に刻み込んでいるのだ。

「私は不可能なものについてお話ししましたが、この不可能なものがおそらくいつか到来するとしても、その帰結を想像することをみなさん方に委ねるしかないからです。

時間をかけてください、しかし、急いでそうしてください。何があなた方を待ち受けているのか、あなた方は知らないのですから。」(73 頁)

デリダが話した 98 年には、まだニート革命は不可能なものだった。しかし、2010 年というニートの年の 2 月 10 日にニート革命が言語革命の名において、どこかで成し遂げられ、いまやニート革命後の世界が開けてきている。アカデミズムの内のあなた方はこのことをまだ知らない。

現場から

障害者自立支援法就労継続支援A型事業所の開所にあたって

解題

以下の文章は、カフェコモンズでの福祉サービス事業開始にあたり、利用者の皆さんにお配りした事業所の案内チラシです。

2010 年 3 月 18 日　ＮＰＯ法人日本スローワーク協会

1. NPO法人ニュースタート事務局関西と、NPO法人日本スローワーク協会とは

18～19 頁の図参照。

2. スローワーク協会のミッションとは

2006 年の総会にて以下のミッションを確認しているので引用する。

■　共生社会

当協会が目指す社会は、様々な価値観や考え方をもった人々や、社会的不利な立場にある人々が、ひとりひとり自律した人間として、お互いの価値観や考え方を尊重し、支えあい、ともに豊かに暮らしていける社会のあり方である。そのためには、社会的に不利な立場にある人々に対する偏見や誤解を取り除くと同時に、具体的な生活の場としての共生的な生活ネットワークの創出が必要になってくる。

■　共働という働き方

共生的な生活ネットワークの基礎になるのは「働くこと」である。しかし現在の「働

き方」においては、企業や事業体の利益追求のためのコスト管理によって、働く者の人間性や人権は、無視され踏みにじられている。当協会が目指す働き方は、このような働き方とは違う「新しい働き方」である。そこでは、働く者の人間性や人権の尊重と、平等・公正・民主という運営形態の実現が目指される。また社会的に不利な立場の人と、そうでない人とが、同じ立場の働く者として、共に働くことができる運営形態の実現も目指される。このような形態の事業体を創出していき、それぞれが連携して安定的な経営を実現していくことが、日本スローワーク協会の第一のミッションである。

■　地域社会への貢献

共生的な生活ネットワーク、新しい働き方に基づく事業体は、ともに地域社会で実現していかなければならない。具体的にいうと、高槻や摂津富田地域である。そのためには、当協会の活動が地域に住む人々に理解されることだけでなく、当協会の活動の実現が、地域社会の利益や豊かさに繋がるものでなければならない。したがって、当協会の活動や事業体は、地域社会が抱え持つ様々な問題の解決のための事業であるコミュニティ・ビジネスという形態をとる。

■当協会の活動ビジョン

つまり、コミュニティビジネスの創出による新しい働き方の実現、そしてそれを基礎においた共生的な生活ネットワークー社会的に不利な立場人もそうでない人も、お互いを尊重し、支えあい、地域社会で、共に生きていける生活ネットワークの実現を、当協会は目指している。

3. 福祉サービス事業開始にあたって

私たちは、もともと働く人たちの協同組合で事業を遂行するという目的を持っていたが、働く人たちの協同組合の法人格がないので、ＮＰＯ法人格を取得したといういきさつがある。当初は福祉サービス事業を始めることをめざしていたわけではないが、引きこもりサポートで展開してきた、社会的排除に対する社会的包摂の活動の帰結として、福祉サービス事業の開始を決断するにいたった。

スローワーク協会としては、障害者の就労支援について、一般就労でも福祉的就労でもない、第三の新しい働き方をめざしたい。イタリアの社会協同組合Ｂ型をモデルに、障害のある人ない人が、共に平等な立場で働き、出資し、経営参加する事業所を確立していきたい。

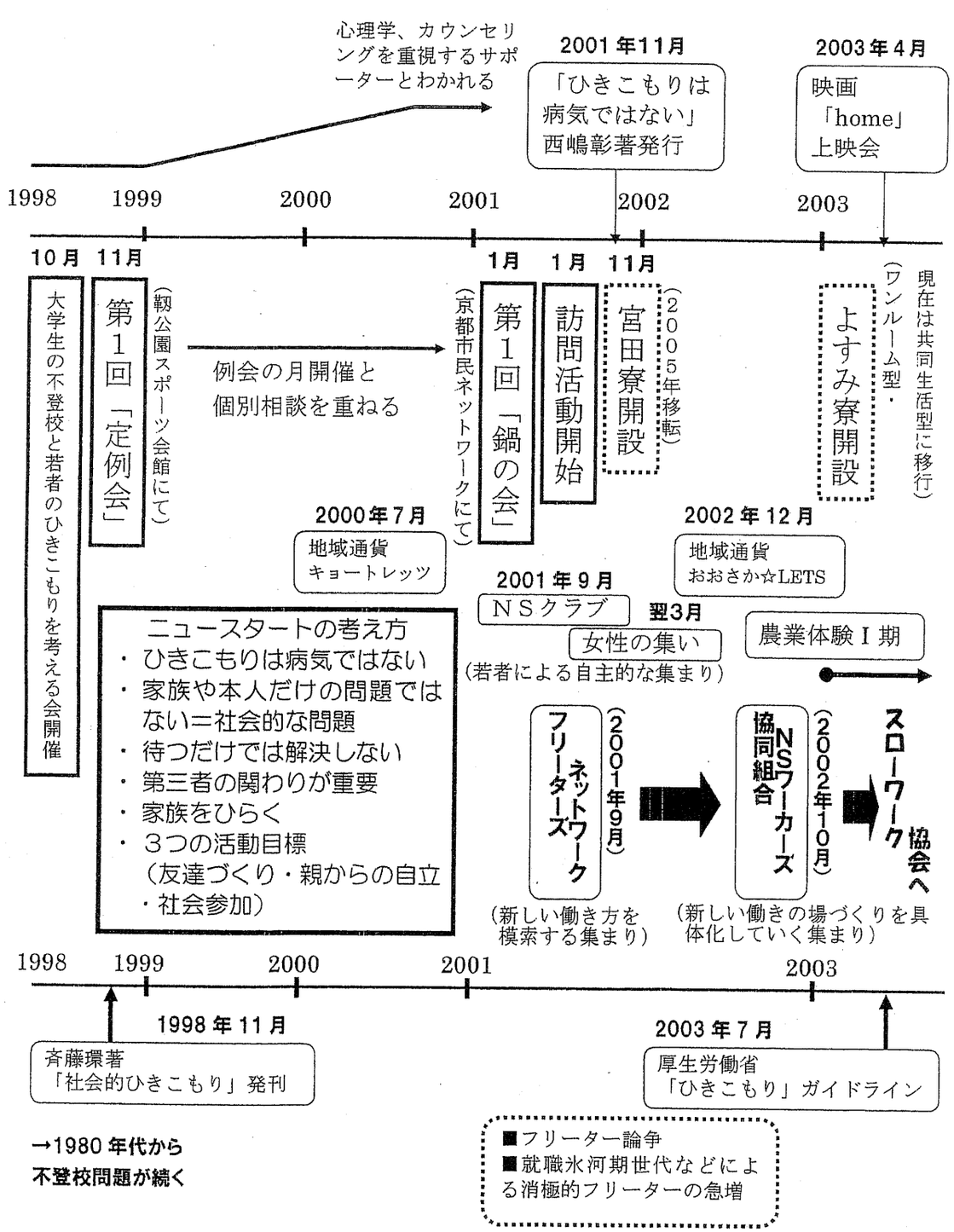
4. 働く人の協同組合とは

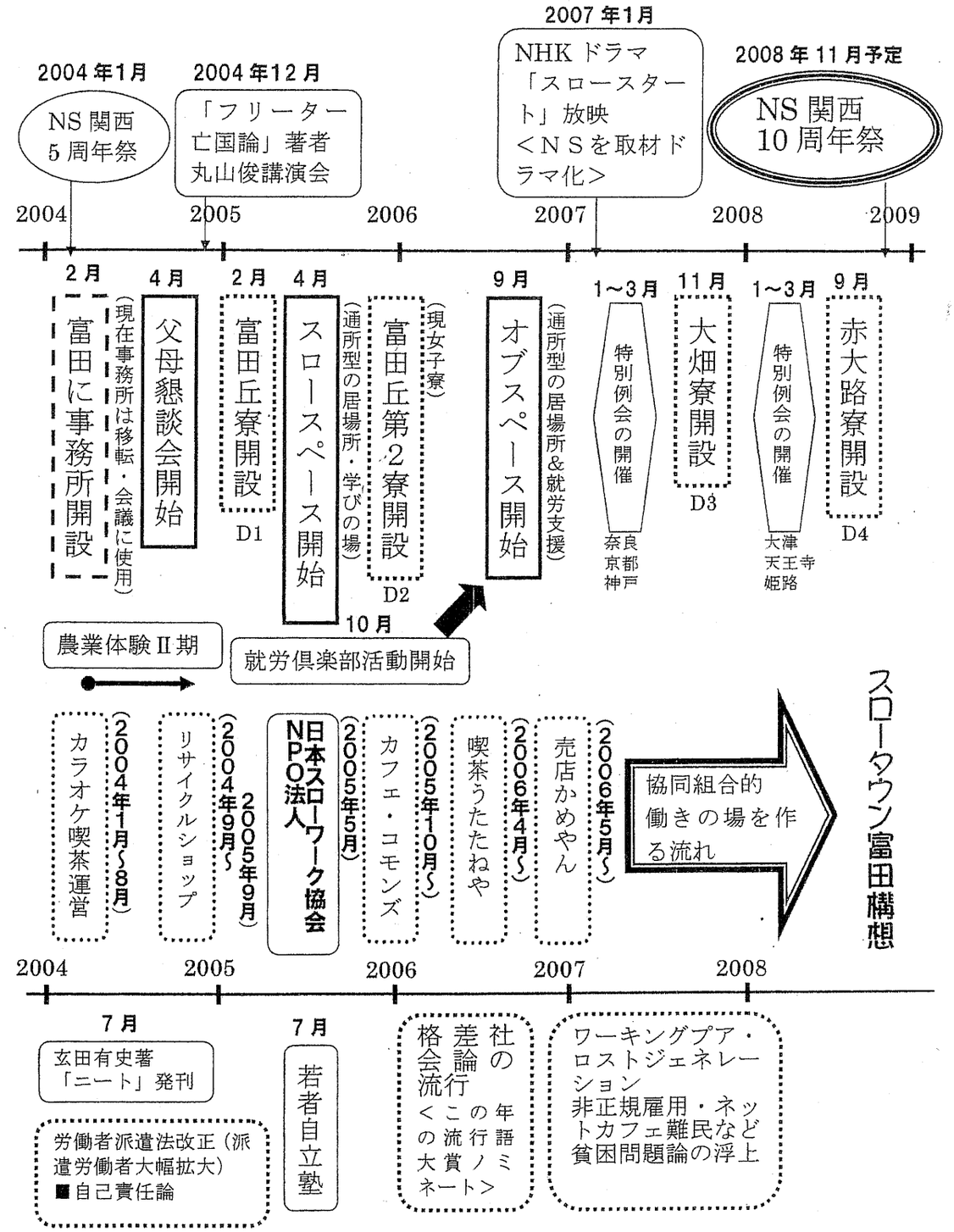
組合員が出資し、働き、かつ経営参加する事業の方式。出資額のいかんを問わず、一人一票で総会での議決権を持つ。総会は事業活動の基本について決定する場。日本で一番普及している協同組合は生活協同組合であるが、それは組合員が出資し、共同購入するが、組合員が働くわけではない。働く人の協同組合は、いまやっと法制化が進められている。

5. イタリアの社会協同組合

ニュースタート事務局関西 10 年年表

編集：石居、高橋





イタリアでは１９７０年代はじめに、精神病院の解体が決められ、入院患者たちが地域で生活するようになった。この人たちの受け皿として、協同組合が働く場を提供してきたが、その実績を踏まえて、社会協同組合の法制化がおこなわれた。Ａ型は社会的に不利な立場の人たちにサービスを提供する事業で、Ｂ型は社会的に不利な立場の人たちも組合員となって共に働く事業だ。イタリアの場合、社会的に不利な立場の人の定義は日本の３障害よりも広く、かつ働く人の人数の３割以上ということだから、日本の障害者の作業所が、７～９割が障害者という状態と違って、事業性があり、かつ公的部門が総合入札制度で、仕事をまわしている。

6. 社会的排除と社会的包摂

ヨーロッパでは、７０年代から、福祉国家の解体が進み、労働の仕組みも変容して、個々人に社会的リスクが負わされ、自己責任で解決することを要求されるようになり、それが無理な人たち（失業者、高齢者、移民など）を排除する社会的排除が進んだ。これに対して従来の福祉国家の枠組みからは外れた社会的包摂の取り組みが、労働統合型の社会的企業として発展してきた。日本でも今世紀に入ってこのことが課題となってきている。

7. NPO法人（特定非営利活動法人）とは

１９８８年３月に制定され、１２月に施行された特定非営利活動促進法に基づく法人で、株式会社のように利益を株主に分配することをしない事業体。出資が認められていないため、ボランティア活動に適してはいるが、事業活動には向いていない。しかし、従来社会福祉法人にしか認められていなかったような福祉サービス事業もやれるので、事業活動を行っているＮＰＯ法人は多い。非営利活動という言葉の意味は利益を上げてはいけないということではなく、オーナーの間での利益の分配を禁止しているということ。

8. 障害者自立支援法について

この法律は、従来別立てであった障害者福祉を介護保険に一本化していくという構想で、措置から契約へという大きな変更があった。しかし利用料の応益負担など問題が多く、民主党は廃止を決めている。新しい法律ができるまでは数年かかるようだが、応益負担は４月から応能負担に変更されるようだ。来年が従来の作業所の移行最終年度だが、ほとんどがＢ型を選択していて、Ａ型は高槻市でも３番目だ。雇用契約を結び利用者に最低賃金を守るというＡ型は従来の作業所にとっては敷居が高いようだ。

9. 働き手の皆さんへ

これまではスローワーク協会は、雇用保険などの正規の雇用関係を結ぶ事業所としては成立してはいなかった。福祉サービス事業開始によって、労働関係法規に従った事業所運営を実施していく。その際に雇用関係を結ぶわけで、形式上は理事会が雇用の主体となる。しかし実質的には、働き手の協同組合として場を作っていきたい。

ＮＰＯ法人の理事は無報酬が基本で、理事のうちの専従職員は役員として働くことになるが、理事会としては、働き手の平等な処遇と、経営参加のできる場作りを積極的に推進していきたい。とはいっても、場を作るのは働き手である皆さん方だ。ゆっくり時間をかけて、準備していっていただきたい。

Ａ型事業所は事業性が問われる。利用者の皆さん方と一緒に困難な課題に挑戦していきたい。

後記

現場からで紹介した、4月から始まった福祉サービス事業の準備に追われる毎日でした。障害者福祉の制度利用は初めてのことでしたので、スタッフ一同迷いごとに悩まされましたが何とか開業にこぎつけました。コモンズでは既にマルチ・ステイクホルダーによる事業展開が進んでいて、法律的には新しく福祉サービス利用者という身分が加わるわけですが、働く人々の労働現場での対等性という協同組合の原理を踏まえて、利用者、スタッフ、ボランティア、訓練生、といった多様な利害関係者のハーモニーを作り出して行きたいと考えています。

ツイッターをはじめてから、まとまった文章を書けなくなったような気がしています。本来は社会的事業所推進に向けての文章を仕上げる予定でしたが、果たせていません。共生型経済推進フォーラムでは、従来「社会的企業」推進ということで出版もしましたが、ここに来て社会的企業という言葉が一般化すると共に、広い意味で使われるようになりましたので、共同連が提起してきた社会的事業所（ヨーロッパの労働統合型の社会的企業）運動に連帯して「社会的事業所」推進で統一しようという方向性が確認されつつあります。またフォーラムでのパンフレット作成については、7月の法人設立総会に間に合うようにすることになりました。

若者の調査で、宮本みち子『若者が社会的弱者に転落する』（洋泉社）の読書会を提案していましたが、5月2日にスペース研究会が読書会を実施しました。述べ参加40名、うち25名が徹夜で研究会が開かれました。読後感想文の運動が起きるかどうか楽しみです。ただ、若者のこの問題についての感覚には各人で非常に温度差があること、しかもそれはそれぞれが自分の興味のあるエリヤからはみだそうとはしないという、ある種の自己規制を感じましたので運動化は難しいかもしれません。

ツイッターからの情報ですが勝間和代と2チャンネルの西村博之との対談が、デキビジで見れるというので見てみましたが、「ひろゆき」の対応に若者らしさが凝縮されているように感じました。今の時代にお金持ちになるのは、松下幸之助のように製造業で労働者と一緒に苦労して事業に成功するということとは別に、遊びやゲーム感覚で仕事をしてそれが当たれば儲かってしまう、というコースがメインかもしれません。そのような成功者の他人への無関心、自己利益への自閉というどうしようもない幼児性が、今の若者のスタンダードかもしれません。この殻を自ら破って共感するという感性を取り戻す、このようなことが、2日の読書会で取り上げられていたビフォの『プレカリアートの詩』（河出書房新社）で提起されているのかもしれません。この本は面白かったので、書評を書くつもりです。あと、条件なき大学の開講の準備を始めています。労働論について、新しい観点から整理してみようとおもっています。